

銀杏企画三丁目の掲示板

[トップページへ戻る](#)

Name	<input type="text" value="国土無双"/>	e-mail	<input type="text"/>
Title			
<input type="text"/>			
Message			
<input type="text"/>			
<input type="button" value="とうこ"/>			

[372] 岐阜の話 2008年3月8日 14時58分

国土無双さん e-mail

こんにちは、国土無双です。

又、ネットで面白い記事見つけたので投稿します。

【岐阜】働く喜び感じて5周年 高山・障がい者に仕事「きららハウス」
2008年3月7日 中日新聞

障がい者に個性を生かした仕事を提供している高山市三福寺町の障害福祉サービス事業所「きららハウス」が、15日で創設5周年を迎える。利用者は障がいの種別も程度も問わない。最初はばらばらだった仲間が仕事を分担し合えるようになり、パンの販売で地域とのつながりも広がっている。

「事業収入がほとんどなく、半年続けられるかなという思いでのスタートだった」。職員の道添健太郎さん(34)は振り返る。現在は18 - 39歳の13人が利用。道添さんを含む正規職員2人とパート職員3人の補助で、1日平均8人ほどが作業をしている。

きららハウスは2003年3月、NPO法人・さんしょうの会(志賀厚子理事長)が設立した。同会の前身は、1989年、高山市山田町の飛騨特別支援学校(旧飛騨養護学校)に通う子どもの保護者と教諭の有志がつくった「障害児教育をよくする会」だ。学校を卒業した障がい者の働く場となる作業所を作ることを目指し活動。02年、NPO法人さんしょうの会となり、03年、きららハウスをオープンした。

当初の利用者は5人。手編みの座布団や木工製品を作っていたが、06年5月にパ

ン工房が完成すると、パンの売上げが月平均約10万円入るようになり、利用者の工賃も増やせた。現在、病院や地域の事業所など30カ所へパンの訪問販売に出かけている。06年10月、障害者自立支援法に基づくサービスに認可。国や市の助成があり、就労で施設を利用する場合は、障がい者の自己負担がなくなった。

地域と触れ合って働けるよう、同ハウスは人里離れた場所ではなく、住宅街の中にある。さらに地域の人が集まる場にしたいと、昨年5月からは毎週1回、生協の商品の一括配送を受ける拠点であるステーションの役割も担い始めた。道添さんは「利用者が何をしたいのかを尊重し、自立を手伝っていきたい」と話している。

精神の方の利用があるのか定かではありませんが、何かの参考になれば幸いです。

[371] 椿三十郎さん、頑張ってください！！ & 物事を柔軟に考える 2008年3月8日 10時4分

国土無双さん e-mail

おはようございます、国土無双です。

椿三十郎さん、建国記念の日の反対集会参加されたようで、敬服いたします。闘う椿三十郎さん、これからもご自分の主張尊重し、頑張ってください！！

管理人さんが、物事に柔軟に対応できないのは病気のせいかもしれないと書き込みされていますが、
国土無双はそうではないと思います。

医学的にそう研究されているかもしれませんが、過去の偉大な先人、夏目漱石や、芥川龍之介も統合失調症でした。

どうか、精神障がいへの偏見がなくなることを思って止みません。

[370] 366の訂正 2008年3月8日 8時22分

椿三十郎さん e-mail

「ブルーストの『失われた時を求めて フランスコミック版』(白夜書房)」を「ブルーストの『失われた時を求めて』(フランスコミック版、白夜書房)」に訂正します。

[369] 367の訂正 2008年3月8日 8時1分

椿三十郎さん e-mail

「野放しにしている」を「野放しにしていた」に訂正します。

[368] 367の訂正 2008年3月8日 7時51分

椿三十郎さん e-mail

「私には思えました。」を「私には思えます。」に、「許せないと思いました。」を「許せないと思います。」に、訂正します。

[367] 柔軟ではない生き方 2008年3月8日 1時17分

椿三十郎さん e-mail

物事を柔軟に考えられないのは国土無双さんではなく椿三十郎です。でも私はそれで良いと思っています。椿三十郎は2008年2月11日に「建国記念の日」に反対する非暴力の集会とデモに参加しました。警察は事件にならない範囲で暴力右翼による妨害を野放しにしているように私には思えました。暴力右翼と警察は許せないと思いました。彼らを黙認しているマスコミも許せないと思いました。暴力右翼は私たちに「日本から出て行け」などと怒鳴っていました。私は自分が暴力右翼に「日本から出て行け」と怒鳴られるような人間で良かったと思っています。私はこれからも物事を柔軟に考えられるような人間になるつもりはありません。

[366] 読書と時間 2008年3月8日 0時47分

椿三十郎さん e-mail

池澤夏樹 = 個人編集の「新しい世界文学全集」(『世界文学全集』全24巻、河出書房新社)の一部(『存在の耐えられない軽さ』など)が刊行されています。文庫サイズの「日本文学全集」(『ちくま日本文学』全30巻、筑摩書房)の一部(?)も刊行されています。時間があれば図書館で借りて読んでみたいのですが時間がありません。プールの『失われた時を求めて フランスコミック版』(白夜書房)の第1巻を図書館でリクエストしました。でも人気があるのでなかなか借りる事が出来ません。大きな本屋さんに行くと面白そうな本が沢山出ています。でも時間がないのが問題です。

[365] 364の訂正 2008年3月8日 0時16分

椿三十郎さん e-mail

「なっています。」を「なっていました。」に訂正します。

[364] 「ブス」って何だ 2008年3月7日 23時52分

椿三十郎さん e-mail

新宿の模索舎(ミニコミ・少流通出版物の取扱書店)で、模索舎のホームページで見た『バハマ』というミニコミの創刊号(税込300円)を買いました。このミニコミのサブタイトルは「ブスによるブスのためのミニコミ」となっています。視点が面白そうだ、と思い

ました。電車の中と家で読みました。このミニコミを読んで「シュレック」「カナナさん大成功です!」「ジャーマン+(プラス)雨」などの映画の事を思い出しました。次号も購入して読んでみようかな、と思いました。

[363] またまたネット情報です・京都の話 2008年3月7日 21時24分

国土無双さん e-mail

今晚は、またまた、国土無双です。

ネットで又、障がい関係の話見つけたので、投稿します。
しつこくて、スイマセン。

障害者作業所移行、独自制度で支援 宇治市、自己負担ゼロを維持

京都府宇治市は新年度から、障害者自立支援法に基づき「地域活動支援センター」に移行する障害者共同作業所への新たな支援制度を創設する。6日の市議会文教福祉委員会で示した。独自制度は府内の市町村で初めてで、障害者自立支援法で危ぶまれている作業所の存続に積極的に乗り出す。

地域活動支援センターは、企業などへの就労が困難な障害者が創作活動や交流を行い、社会参加する施設。自立支援法は、現行の共同作業所に移行を促しているが、都道府県からの補助金がなくなるため、作業所が財政面で不安を訴えている。

新支援制度で市は、センターの家賃、光熱水費、通信費のほか、常勤職員の費用として年330万円を施設に補助する。また、通所者の通所日数に応じ、1人当たり月9200円 - 5万7500円までのえ段階で報酬を施設に払う。

「施設外活動加算」も設け、利用者が通所しなかった日でも、職員が自宅を訪問するなどして何らかの活動を施設外で行った場合、半日分を通所日数として報酬に算入し、精神障害者などへの活動充実を助ける。

市によると、これらの新支援制度で作業所はセンター移行後も現在の活動が継続でき、利用者の自己負担もゼロを維持できるという。制度を適用するセンター移行時の条件は利用者10人以上と定めたが、開設初年度は8人以上とし、柔軟性を持たせた。宇治市内には5つの障害者共同作業所があり、第1号として新年度から洛南共同作業所(同市木幡)に適用する。宇治市では昨年12月、作業所への支援継続を求める請願が市議会で可決されていた。

革新的な京都での試み、先駆けだと思います。
東京の某知事さんも福祉にも目を向けてもらいたいものです。

まえのページ

あたらしいページ

パスワード

削除番号

372

記事削除

